Fukushima Association of Corporate Executives
福島経済同友会 会報
2015.1
No.5
新年号

□最近の活動状況

【第5回朝食懇談会】

―12月12日(金)ホテル辰巳屋―

鈴木　勇人・株式会社AC福島ユナイテッド代表取締役を講師にお招きしての朝食懇談会を開催し「『地域の活性化につながるクラブづくり』～福島ユナイテッドFCの挑戦～」と題してお話をいただきました。

当日の参加者は38名でした。

以下、鈴木代表取締役の講演録を掲載しました。

右　講師　鈴木氏

下　会場風景

○「理念」が大切

Jリーグでも理念を大事にしていますが、「サッカーを通して」ではなく「スポーツを通して福島を元気にする」そして「子供たちに夢を提供」し「世界に誇れる福島を創造する」ということを掲げて活動しています。サッカーを「観る」楽しみとして最高のエンタテイメント空間を創り、サッカー(スポーツ)をプレイする楽しみとして質の高いスクールやスポーツ教室を実施し、クラブの活動による地域の活性化と街の誇りを創る事により福島を元気にしていこうと考えています。

○フットボールビジネス

今シーズンは厳しい状況の中で7位となりましたが、最終節ではロスタイムで劇的なゴールを決めホームで勝利を飾ることが出来ました。当日は約2千名のサポーターが観戦されましたが、最高に盛り上がりました。

お客様は「勝利」を望んでいます。チームが「勝つ」ことにより来場者が増え、収入も増えますので、強化費を増やすことが出来、良い選手を揃えることが出来るのでチーム力も強くなり、勝利のスパイラルに入っていくことが出来ます。残念ながら「負け」が続きますと来場者は減り、収入も減り、強化費が削減され、チーム力が低下し、また「負ける」という負のスパイラルに陥ってしまいます。

クラブは強化費が先行します。クラブを強くするために優秀な選手を獲得しても、経営を圧迫しないよう、バランスを取ることがとても大事であり、フットボールビジネスの非常に難しい点でもあります。

○現状と課題

J2基準のスタジアムは残念ながら福島県内にはありませんので勝っても昇格できないのが現状です。かつ、専用の練習場もありません。今後は、現在使用している練習場を整備し専用にしたいと考えています。子供から大人まで練習できる環境を整えなければ、本当のプロクラブではないと思っています。そのため専用の施設「フットボールセンター」を作ることが急務となっています。完成すれば「強いチーム」づくりの第一歩となり、また、他県からキャンプ地としてクラブを誘致することにより福島への経済効果も期待されます。

そして、何よりJ2基準のスタジアムを作りたいと考えています。最近、全国の自治体でスタジアム建設が過熱しています。「何のために作るのか?」といいますと、街中に集客出来るスタジアムを作る事により街の活性化が期待されるからです。

2020年に東京オリンピックが開催されますが、例えば「20○○年、福島にスタジアム完成!」というアドバルーンを福島経済の中心を担う皆様と共に考えながら歩んで行きたいと思っております。

(文責　事務局)

【全国経済同友会代表幹事円卓会議】

—10月20日(月)郡山市—
—10月21日(火)川内村ほか視察—

会場風景(郡山市　ホテルハマツ)

今年の円卓会議は、郡山市で開催されました。この会議は従来、東京都内で行われていましたが、東日本大震災による復興支援のため被災地で開かれており本県では2年ぶり2度目の開催となりました。全国から約110名が参加し、当会からは浅倉代表幹事、渡部代表幹事、阿部代表幹事が参加しました。

長谷川閑史･経済同友会代表幹事の開会挨拶に続き、開催県を代表して渡部代表幹事が「福島が本来の姿を取り戻せるよう全国からの応援を引き続きお願いしたい」と挨拶しました。

竹下復興大臣の「復興加速化への取組み」と題した講演の後、会議では被災3県からの報告が行われ、浅倉代表幹事が、避難状況や観光客が戻らない現状を説明し「原発事故の解決なくして福島の再生はない。今こそ、英知を結集して問題解決の努力を続けていきたい」と述べられました。

販売会の様子

また、会場のロビーにおいて福島県産品の販売会が行われました。福島県の銘酒・銘菓・果物などを多くの方々が購入されていました。

翌21日は県内視察が開催されました。まず、川内村の遠藤村長から復興状況について説明が行われた後、最先端の完全密閉型植物工場である川内高原農産物栽培工場を視察しました。

次に富岡町へ移動し、「帰還困難区域」との境界を示すバリケードの前にて宮本・富岡町長より町の現状について説明があり、駅舎が崩壊・流失したままになっている富岡駅などを視察しました。

その後、IPPO　IPPO　NIPPONプロジェクトで様々な実習機材を贈呈している福島県立いわき海星高等学校に訪れ、澤尻校長より教育現場の状況について説明があり校内を視察しました。また、生徒たちによる感謝を込めた「じゃんがら念仏踊り」が披露されました。

福島県の現状を報告する浅倉代表幹事(左)
渡部代表幹事(中央)、阿部代表幹事(右)

じゃんがら念仏踊りを披露したいわき海星高校生

【IPPO　IPPO　NIPPON視察】

―11月7日　名取市ほか―

このプロジェクトに参加している企業を対象とした視察が開催され28名が参加しました。

毎年一度、現地視察を行っており、今回は宮城大学が南三陸町で進めている塩害地域でのブランド羊肉の事業化プロジェクトや、仮設校舎で授業を続けている宮城県立気仙沼向洋高等学校を視察してきました。

このプロジェクトは東日本大震災の被災地復興のため、全国の企業、団体や個人から募集した寄附金により、被災した職業高校への備品提供や親を亡くした子どもたちへの支援等を行うプロジェクトで、半年を1期とし5年間にわたり支援を継続しています。

平成26年3月3日から開始した第6期の活動は7月31日に終了し、企業・法人377社、個人48名の参加を得て、募集した寄附金3億349万9,526円を被災3県の専門高校・大学などへ支援しました。

福島県においては、被災した専門高校4校へ約8千万円相当の物品を贈呈しました。

引き続き、皆さまのご協力をお願いします。

仮設実習室にて支援備品の説明

御礼の挨拶をする生徒会長

□今後の予定（詳細決まり次第ご案内申し上げます）

【新年懇親会】日　時：平成27年1月29日（木）
午後3時～　講演会
午後4時～　懇親会
会　場：ホテル辰巳屋
講　師：株式会社ＩＨＩ
航空宇宙事業本部生産センター
（兼）相馬事業所長　須貝　俊二 氏

□事務局だより

平成26年10月～12月に変更のありました会員を紹介します。（敬称略）

会員交代		
		平成26年12月交代 佐久間（さくま）　信幸（のぶゆき） （株）日進堂印刷所 代表取締役社長

（平成27年1月1日現在　会員数77名）

引続き会員増強にご協力をお願い申し上げます。

□会員企業紹介 【第5回　朝日システム株式会社】

今回は当会の副代表幹事を務めていただいている、朝日システム株式会社の博多社長にお話をお伺いしました。当社は福島県におけるソフトウェア開発の草分けとして情報システムの提供を行っており、博多社長から多岐にわたるお話を伺い、現代の情報ネットワーク社会においては、なくてはならない存在であると感じました。

朝日システム株式会社
代表取締役社長
博多　義雄　氏

○社名の由来は朝日連峰

以前コンピュータ関係の会社に勤めていた折、仕事で福島に赴任してきました。その当時、福島市にはまだソフト開発の会社がなかったため1980年に起業し、銀行オンラインシステムの構築などを手がけてきました。以来、自治体システムはじめ公共性の高い分野での実績を積み重ね、お客様の視点に立ち、ハイレベルのITソリューションの提供に努めています。

○「人こそ財産」が基本

ソフトウェア開発において専門的な知識はもちろん必要ですが、コンピュータは多種多様な分野に関連しているため各業種に精通した幅広い知識が求められます。また、現代の急激な技術革新にも対応できるよう、新しいことへのチャレンジ精神も必要とされます。当社では、プロフェッショナルな技術者として活躍できるよう教育環境にも力を注いでおり、セミナーの受講や資格取得を補助する制度があり、社員も積極的に利用しています。

○震災を教訓に

東日本大震災を経験したことにより企業の防災意識が高まり、システムを構築する上で、データの分散・バックアップを抜きには考えられなくなりました。例えば、ネットワーク環境が発達した現代において、データの保管場所を国内に限らず海外に置くということも選択肢の一つとして考えられます。様々なリスクを考慮した上で、お客様にとって最適な提案を心掛けています。

また、当社が提供している地理情報システム（GIS）と防災情報システムの連動を強化し引き続き地域の安全と安心に貢献していきたいと思います。

○ベースは福島

当社は現在、県内をはじめ仙台や東京に支店を配置し広く展開しています。今後も大手メーカーと協調し仕事は幅広く広域的に進める一方、社員の生活拠点は「福島」に根ざし、地域の活性化につながるよう考えてまいります。

住　　所	〒960－8154　福島市伏拝字台田1－2
設　　立	1980年10月
従業員数	95名
T　E　L	024－539－8890
U　R　L	http://www.asahisys.co.jp/

編集後記

◇会報の英文タイトルの単語の頭文字が「ＦＡＣＥ」となっていることをお気づきになりましたか？（私は上司に指摘されるまで気が付きませんでした。）この会報が当会の活動を発信する「顔」となるよう今年も内容の充実を心掛けて頑張りますので、ご愛読下さいますようよろしくお願いします！！